

令和６年度 第４次子どもかがやきプラン推進委員会における主な意見

１ 開催日時

- 第１回 令和６年 ７月 ４日（木） １０：００～１２：００
第２回 令和６年 １１月 ５日（火） １０：００～１２：００
第３回 令和７年 １月 ２９日（水） １０：００～１２：００

２ アクションプラン２０２５に関係する主な意見

政策Ⅰ 多様なニーズに応じた学びを支える学習環境の整備

○学びを支える環境の整備

- ・大垣特別支援学校と東濃特別支援学校については、教室数が不足している状況であるが、児童生徒数は増加傾向にある。教育の安全性を保つためにも早急な整備をお願いしたい。
- ・設置基準を満たしていない学校については、なるべく早急な対応をお願いしたい。また、実際に教室不足、老朽化している学校もあるため、早急な整備をお願いしたい。

○高等特別支援学校機能の整備

- ・東濃、飛騨地区に整備できる方向に検討を進めていただきたい。

政策Ⅱ 多様なニーズに応える学びの場の充実

○発達障がいのある児童生徒等の学びの充実

- ・高校通級については、成果を感じており、引き続き人材育成に取り組んでいただきたい。また、高等学校教員の特別支援教育に対する意識向上が求められる。

○視覚障がい・聴覚障がいのある幼児児童生徒の学びの充実

- ・弱視通級があることによって、小・中学校の先生にとって盲学校との連携がしやすくなり、視覚に困難さがある子ども、読み書き障がいのある子どもの相談をするきっかけにもなるため、ぜひ進めていただきたい。

○医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの充実

- ・泊を伴う活動時にも看護師が同行できるようにしてほしい。

政策Ⅲ 学びの場を支える教員の専門性向上

○研修等の充実による教員の専門性向上

- ・実際に保護者の話や特別支援教育の経験のある管理職の話を聞ける場が研修としてあることはありがたい。
- ・若手教員が増えている中、専門性を高めていくための取組みについては引き続き推進していただきたい。

第4次子どもかがやきプラン アクションプラン 2025

2

地域と共に創る 新たな学びのスタイル

◆令和6年3月に策定した「第4次子どもかがやきプラン」に基づき、令和7年度の主な取り組みを示しました。

◆障がいのある子どもたち一人一人の教育的ニーズに対応するための多様な「学びの場」の整備と「学びのスタイル」づくりをさらに進めるとともに、各地域で「インクルーシブ教育システム」が主体的に運用されることを目指して取り組みます。

政策Ⅰ 多様なニーズに応じた学びを支える学習環境の整備



取組内容

○学びを支える環境の整備

- ・各特別支援学校の在籍者数の推移、特別支援学校設置基準への適合状況を踏まえ、教育支援体制の見直しを検討します。
 - ▶岐阜本巣特別支援学校：南館棟の未改修部分を活用した内部改修を進め、教室等を整備します。
 - ▶大垣特別支援学校及び東濃特別支援学校：設置基準を満たすための整備方法を引き続き検討します。
 - ▶郡上特別支援学校：1校舎体制への移行に向けた調査を行い、関係機関等と連携し整備方法等の検討を進めます。
 - ▶飛騨特別支援学校（本校及び分校）：基本計画を基に、引き続き設置基準を満たすための整備方法の検討を進めます。
 - ▶揖斐特別支援学校：今後の児童生徒数の推移を見ながら整備の必要性について検討します。
 - ▶関特別支援学校及び中濃特別支援学校：今後の児童生徒数の推移を見ながら教育支援体制の在り方について検討します。

○高等特別支援学校機能の整備

- ・岐阜清流高等特別支援学校、西濃高等特別支援学校及び可茂特別支援学校における高等特別支援学校機能の実践を検証するとともに、東濃、飛騨地域における、学校規模、整備内容等について引き続き検討します。

○特別支援学校児童生徒の通学支援

- ・**〔新規〕** 医療的ケアを必要とする児童生徒の通学支援について、モデル事業を実施します。
- ・スクールバスの安全な運行と利用を希望する児童生徒数の増加等を踏まえ、計画的に配備を進めます。
【運行台数】75台（含 更新：3台 増配備：5台）

政策Ⅱ 多様なニーズに応える学びの場の充実



取組内容

○発達障がいのある児童生徒等の学びの充実

- ・**〔拡充〕** 岐阜地域、美濃地域、可茂地域に続き、西濃地域、東濃地域において、通級担当教員が県立高等学校へ出向いて指導を行う「通級による指導（巡回型）」を開始します。
【西濃地域】拠点校：大垣北高校 【東濃地域】拠点校：東濃フロンティア高校（多治見地区） 恵那高校（恵那地区）

○視覚障がい・聴覚障がいのある幼児児童生徒の学びの充実

- ・**〔新規〕** 岐阜盲学校を拠点とする弱視通級指導教室を開始します。また、通級による指導が必要な児童生徒の調査を継続して行い、市町村教育委員会と連携した指導体制づくりに取り組みます。
- ・岐阜聾学校のセンター的機能としての役割を周知し、全県における専門性の高い支援を行うとともに、特に早期からの一貫した指導支援を行うために、飛騨特別支援学校及び恵那特別支援学校と難聴児支援センターとの連携を深め、支援体制の充実を図ります。

○ICTを活用した学びの充実

- ・長期入院やそれに伴う自宅療養を必要とする生徒への遠隔教育による学習支援について、オンデマンド型授業の在り方をガイドブック等で周知し、オンラインおよびオンデマンド型授業の学習内容の充実を図ります。

○社会へつなぐ職業教育・就労支援の充実

- ・**〔新規〕** 職業教育担当者会を特別支援学校において実施し、作業学習の在り方について意見交換や検討等を行う場を設定し、働く力を育成する学習内容の充実を図ります。
- ・職業教育実践発表会や作業製品合同販売会など、学びの成果を発表する場を広げ働く力の育成を図ります。

○医療的ケアを必要とする児童生徒の学びの充実

- ・**〔新規〕** 医師との連携の下、修学旅行等の泊を伴う学習活動に安全安心に参加できるよう、看護師が同行し医療的ケアを行います。
- ・特別支援学校、小中学校等で医療的ケアにあたる看護師等を対象とした、実技指導を含む専門性向上のための研修を継続して行います。
- ・特別支援学校に勤務する指導的立場の看護師や担当教員による、医療的ケアに関する相談支援、訪問支援等を継続して行います。

○交流及び共同学習の推進

- ・事務手続きを簡略化して速やかに交流を開始できるようにし、好事例の紹介や学校間の連携を深めることで、交流の質の向上を図ります。

○切れ目ない支援体制の整備

- ・特別支援学校のセンター的機能により、地域の園・学校等における特別支援教育に関する理解を深め、支援の充実を図るための相談や訪問支援、研修会などを継続して行います。

政策Ⅲ 学びの場を支える教員の専門性向上

取組内容



○研修等の充実による教員の専門性向上

- ・**〔新規〕** 幼・小・中・高等学校等の管理職を対象とし、特別支援教育の理解の推進、校内の支援体制構築に向けた研修を行います。
- ・**〔新規〕** 高等学校における特別支援教育の推進のために、担当者会議、個別の教育支援計画作成研修をとおして特別支援教育コーディネーターの専門性を高めます。
- ・小・中・高等学校等において、発達障がい支援に関する理解推進や専門性向上のために、教員の経験年数やニーズに応じたオンデマンド型の研修、課題追究型の研修等を行います。

○コア・スクールの活用による教員の専門性向上

- ・コア・スクール（※）が各領域の専門性を活かし、各特別支援学校からの相談に対して訪問支援やオンライン相談を実施します。
- ・各コア・スクールにおける専門領域に精通したコア・ティーチャーが講師となり、県総合教育センターにおける特別支援教育に係る研修の充実を図ります。

※コア・スクール | 岐阜盲学校（視覚障がい）、岐阜聾学校（聴覚障がい）、長良特別支援学校（病弱）、
岐阜希望が丘特別支援学校（肢体不自由）、岐阜清流高等特別支援学校（軽度知的障がい）の5校